

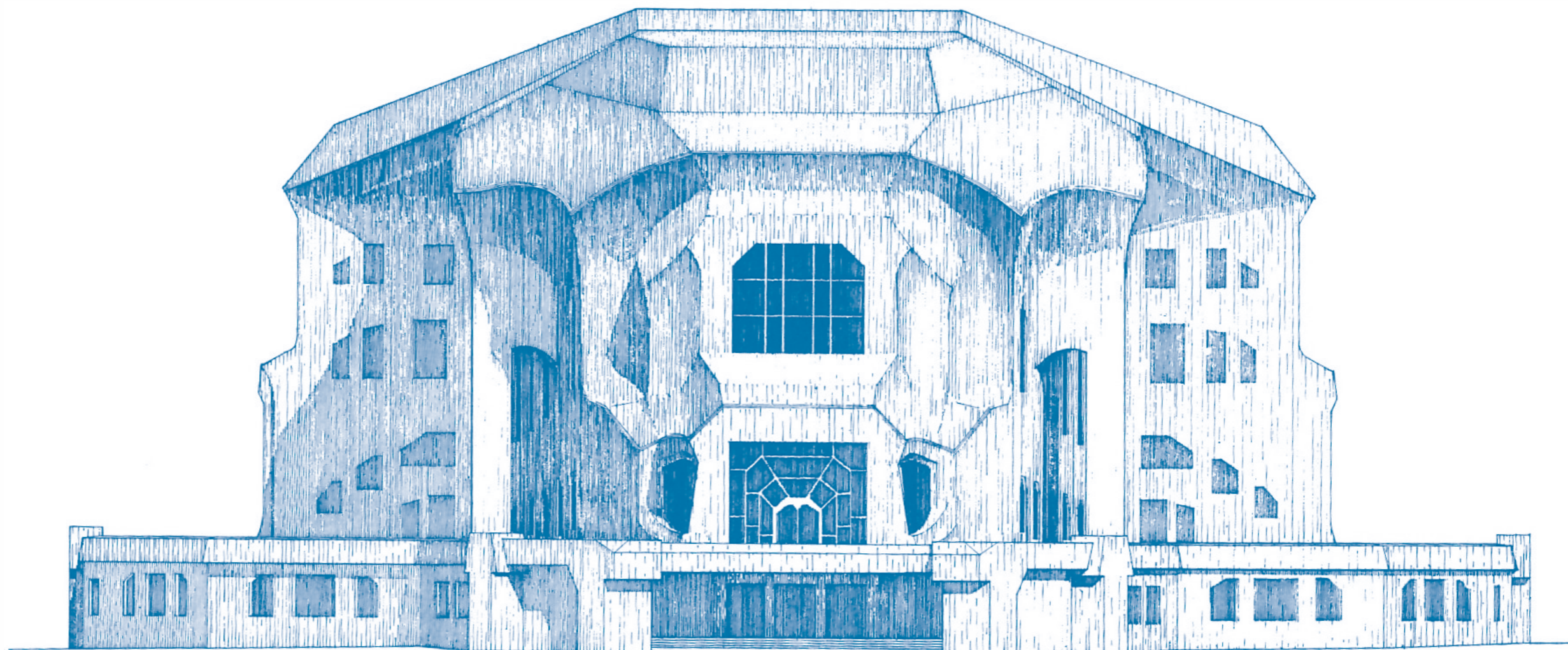
スイス・ドルナッハに建つ第二ゲーテアヌムは、アントロポゾフィー (Anthroposophie) の創始者であるルドルフ・シュタイナー (Rudolf Steiner, 1861-1925) の代表的建築作品です。大小二重のドームで構成された木造の第一ゲーテアヌム (1913-1920) は1922年大晦日に焼失し、翌1923年のクリスマス会議において再建が決議されました。その時同時に普遍アントロポゾフィー協会が設立されました。

そのクリスマス会議から100年。教育、医学、農業、芸術など、様々な文化領域でアントロポゾフィー運動が展開され、多くの実りをもたらしました。第二ゲーテアヌムの建築衝動はいかなるものであったのか、そしてアントロポゾフィーの活動はそのエンテリックな深みからどのように現代と未来に展開されていくのでしょうか。

小金井 宮地楽器ホールを会場として、様々な建築の模型やパネルによる展示 (12月21~25日、市民ギャラリー)、音楽、オイリュトミーや言語造形などの舞台芸術の表現 (12月22日、小ホール) を通して、共に体験し、共に考えたいと思います(石川恒夫)。

「ゲーテアヌムがいかにして、
霊的なものを求める人々
にとっての
一種の守護となるべきかが、
このフォルムによって
現れるようにしたいと思う。」

1924年1月1日 (クリスマス会議最終日)
ルドルフ・シュタイナーの講演より



第二ゲーテアヌム 西立面図 上松佑二作(1968)

主催：クリスマス会議100周年記念事業実行委員会
(日本における普遍アントロポゾフィー協会会員の有志)

後援：Goetheanum (ゲーテアヌム、スイス)
一般社団法人東京建築士会
公益社団法人日本建築士会連合会(予定)
一般社団法人日本建築学会関東支部群馬支所
一般社団法人アウディオベーデ
日本アントロポゾフィーネットワーク

協力：コーディネーショングループ (日本で普遍アントロポゾフィー協会会員によって設立された9グループ)
アントロポゾフィー関西/一般社団法人アントロポゾフィー協会/コリスコ・グループ/四国アントロポゾフィー・クライス/東京ミハエル支部/藤野ソフィアグループ/北海道トローネ支部/マリア支部/ルドルフシュタイナーハウス

展示協力：前橋工科大学石川研究室

会場
小金井 宮地楽器ホール
〒184-0004 東京都小金井市本町6丁目14-45 Tel 042-380-8077
交通：JR中央線「武蔵小金井駅」南口駅前
(新宿から約30分)
<http://Koganei-civic-center.jp>



2023.12.21 Thr - **12.25** Mon 市民ギャラリー (地下1階)

13:30-20:00(22日のみ12:00-21:00まで) (通常入館は19:30まで/最終日25日17:00まで) 【入場無料】

記念展覧会 (ミニ・ワークショップの予定あり)

2023.12.22 Fri 小ホール (1階)

13:30-20:00 (入場料通し券 2,900円)

オーケストラオイリュトミー、音楽、定礎の言葉 第I部 13:30-16:40 入場料：2,000円(I部のみ)

記念シンポジウムと対話 第II部 17:30-20:00 入場料：1,500円(II部のみ)

会場 **小金井 宮地楽器ホール**

〒184-0004 東京都小金井市本町6丁目14-45 Tel 042-380-8077

交通：JR中央線「武蔵小金井駅」南口駅前(新宿から約30分)

<http://Koganei-civic-center.jp>

12月22日 Fri. 1階小ホール

ゲーテアナムとシュタイナーの世界観 —希望の礎として、これからの100年へ—

第I部：オイリュトミー、音楽、定礎の言葉

* 12:00～ギャラリー・トーク(45分)
展示ガイド(市民ギャラリー) 参加無料 当日受付

13:00 開場
* 当日受付にて参加費のお支払いをお願いいたします。
* 下記の時刻は目安です。内容に変更があることがあります。

13:30 ごあいさつ(石川恒夫)

13:45 **これからの100年へ：**
希望の礎としての、オーケストラオイリュトミー
ドヴォルザーク <新世界より> 第二楽章

ダニエル・バレンボイムは、「音楽はあらゆる異分子を調和へ導く希望の礎だ」と言う。音楽の中でも、交響曲を奏でるオーケストラは、まさに異分子を調和へと導く作業そのものだ。オーケストラオイリュトミーも全く同様の事が言えよう。それぞれの楽器から奏でられる歌は、オイリュトミスト全存在を通して響き合い、活かし合い、一つの歌となる。かつてシュタイナーは、「オーケストラは一個の人間だ」と表現した。「新世界より」第2楽章のデモンストレーション、実演を通し、オーケストラオイリュトミーがまさにマクロ的にも、ミクロ的にも「人間とは」との問いへの答えとなりうることをご覧いただければ幸いです。
(にもオーケストラオイリュトミープロジェクト代表 小林裕子)

14:45 休憩

15:00 **音楽 西洋と東洋の精神性の融合を求めて**
—23弦琴と響きの楽器とのコラボレーション—

響きの楽器といわれるタムタム、ゴング、シュテーベは、アントロポゾフィーの治療音楽を目的として考案されました。作者はドイツ・ハイリゲンベルクのマンフレット・ブレッツフェルト氏で、東洋の叡智をもとに製作されたといわれています。一方、琴は言うまでもなく東洋が生んだ楽器です。演奏者たちは長い演奏活動をする中で、響きの楽器に出会い、アンサンブルを通して西洋と東洋の精神に触れることができたと感じています。本日の演奏はこのクリスマス会議100周年を祝しての初演となります。皆様のお心に届きますように！(音楽教育・音楽療法士 竹田 喜代子)

15:45 休憩

16:00 **オイリュトミー「定礎の言葉」(第一～四連)**

「定礎の言葉」は、人間の魂が手足の領域、胸の領域、頭の領域で、どのように生き生きと活動しているかを語っています。これは瞑想の言葉ですが、ルドルフ・シュタイナー自身によるオイリュトミーのフォルムがあり、魂が三つの領域で活動しつつ宇宙とも繋がっていることを、オイリュトミーの動きによって目に見えるようにします。第四連は祈りの気分を持つ「原初のクリスマス」です。「定礎の言葉」は難解ですが、アントロポゾフィーを学ぶ者にとってはとても大切な言葉です。日本での初演は2000年5月でしたが、クリスマス会議100周年を記念する今回の会議で上演できることは大きな喜びです。
(オイリュトミスト 藤井馨子)。

16:40 休憩



第II部：記念シンポジウムと対話 《第二ゲーテアナムから未来へ》 ～アントロポゾフィーの“いのち”と“かたち”～

17:00 開場
* 当日ホール受付にて参加費(第II部)のお支払いをお願いいたします。
* 内容に変更があることがあります。

17:30
司会 入間カイ
ごあいさつ (上松佑二)

【記念シンポジウム】
**クリスマス会議から100年、
未来をどうつくっていくのか？**

- ・第二ゲーテアナムの建築と精神科学自由大学 (上松佑二、石川恒夫)
- ・クリスマス会議とは何か(入間カイ)
- ・アントロポゾフィーの生活領域
～医学、農業、教育を中心に～

【対話】
アントロポゾフィー運動の未来をめぐって
・日本の9つのアントロポゾフィーグループから
・会場の皆さんとの話し合い

【終わりに】
「定礎の言葉」(第四連)

20:00 終演

* 地下1階市民ギャラリーは21時まで開場しています。どうぞご覧ください。

* 現在、日本でも各地でクリスマス会議の意味について講座や勉強会が行われています。関心のある方は各地のアントロポゾフィーグループへお問い合わせください。

12月21日 Thu - 25日 Mon. 地下1階市民ギャラリー 入場無料

ゲーテアナムとシュタイナーの世界観 —希望の礎として、これからの100年へ—

記念展覧会：芸術へのいざないーゲーテアナムの建築、彫刻、絵画

ミュンヘン市内の劇場を借りての、1907年のテオゾフィー協会年次総会で、ルドルフ・シュタイナーははじめて、内装の設計を試みました。その後1910年にルドルフ・シュタイナーによる神秘劇が初演され、上演にふさわしい劇場空間が作られるべきとなりました。建築の内に生きていくものが、外的フォルムとして表現されるようにと(a)、1913年から20年にかけて、パーゼル近郊ドルナッハに、今日で言う第一ゲーテアナムが建設されました(b)。しかし1922年の大晦日に放火され、焼失してしまいます。彫りこまれた柱やアーキトレブ、彩色された天井、ダイヤモンドカッターで削られた色ガラス—すべては破壊されてしまいました。

この状況において、ルドルフ・シュタイナーにとってはアントロポゾフィー運動の結末が問題でした。その結果、1923年のクリスマスに普通アントロポゾフィー協会が新たに設立されました。それから100年が経ちました。設立総会の中で、ルドルフ・シュタイナーはゲーテアナムの再建への思いを表明し、1924年1月1日の講演において、築かれるべき建築のスケッチを黒板に描きました(c)。1924年3月、ルドルフ・シュタイナーは家具工房で、新しい建築計画のベースのためのモデルづくりに没頭したのです。

1924～25年には、第一ゲーテアナムの瓦礫の除去が始まりました。ルドルフ・シュタイナーはその後、重い病にかかり、1925年3月30日に逝去します。内部の造形はまだ手付かずの状態でした。それでも1928年の9月末に、世界中から約2,000人が新しいゲーテアナムの竣工式のために集いました(d)。建物はしかし、躯体以上のものではなく、多くはむき出しの状態でした。今日の内装は、1928年から少しずつできてきたものです(e)。ゲーテアナムは生成・発展している建築でもあるのです。

アントロポゾフィーを芸術的造形によって表現する衝動は、新・旧二つのゲーテアナム建築に共通することです。訪問者はそれによって、かたちや色彩を、象徴や記号として受け取るのではなく、いのちの直接的な表現として受け取ることでしょう。アントロポゾフィーの造形芸術は、その表現をメタモルフォーゼの内に見出します。それはゲーテアナムの建築をはじめ、付属建築、ランドスケープデザイン(f)を通して、多様なあり方で展開しています。そしてドルナッハの丘に、一つの全体が生まれています。

4つのゾーンに分けて展示された約50点のパネルやモデルを通して、建築造形の変遷と多様性をご覧ください(石川恒夫)。

Nachweis der Abbildungen:
Goetheanum Archiv (d)
Rudolf Steiner Archiv (a), (b), (c)
Staats Archiv Basel
Yuji Agematsu (e), (f)



(a)



(b)



(c)



(d)



(e)



(f)



ギャラリー／ワークショップ

日本の各地で展開されている、協会グループ、生活領域の活動もパネル展示、映像展示いたします。

展覧期間中の午前の時間に、ワークショップ、レクチャーを予定しています。
テーマ・日時の最新情報は上のQRコードからご確認ください。

申込方法 12月22日(小ホール)

【チケット代】①通し券 2,900円
②第I部のみ 2,000円
③第II部のみ 1,500円

* 中学生以上の方にご入場いただけます。
* 第I部の定員は80名です。

【申し込み先】foto100th@gmail.com (幸治)

お名前、ふりがな、メールアドレス、お電話番号、ご希望のチケットを明記し、メールにてお申し込み下さい。定員になり次第締め切りますのでお早めにお申し込み下さい。
(代金は、当日受付にてご精算ください)

【口座のご案内】
三菱UFJ銀行 学芸大学駅前支店
普通 0251355
口座名義 ブックマーク

本事業の開催を賛同くださり、ご寄付の意志をお持ちの場合には、上記口座への入金をお願いいたします。

【全体に関するお問い合わせ】
070-8552-7941 (安部)
(e-mail)
ishikawa@maebashi-it.ac.jp (石川)